

2014年8月1日
昭和電線ケーブルシステム株式会社

第28回 独創性を拓く 先端技術大賞 「フジサンケイ ビジネスアイ賞」受賞

昭和電線ケーブルシステム株式会社（取締役社長：大橋省吾、本社：東京都港区）と学校法人成蹊大学（学長 亀嶋庸一、所在地：東京都武蔵野市）、公益財団法人国際超電導産業技術研究センター（理事長 森 詳介、所在地：神奈川県川崎市高津区）の共同研究『ナノ組織制御による人工欠陥導入次世代超電導線の開発』が、「第28回 独創性を拓く 先端技術大賞」において「フジサンケイ ビジネスアイ賞」を受賞、2014年7月31日(木)に明治記念館にて授賞式が行われました。



この技術は、イットリウム系超電導線材の磁場中の特性を大幅に改善するもので、超電導線材の利用範囲を広げる革新的技術として注目されています。昭和電線ケーブルシステム(株)は、この技術を使ったnPAD-YBCO®及び接続用部品を製造・販売しており、高い磁場中でも使用できる超電導製品として、医療機器、超電導ケーブル、超電導磁石応用機器などへの展開が期待されています。

「独創性を拓く 先端技術大賞」は、「科学技術創造立国」の実現に向け、優れた研究開発成果をあげた全国の理工系学生と企業の若手研究者、技術者を表彰する制度で、フジサンケイ ビジネスアイが主催しています。

1. 業績名：『ナノ組織制御による人工欠陥導入次世代超電導線の開発』

2. 受賞者

学校法人成蹊大学 三浦 正志
公益財団法人国際超電導産業技術研究センター 吉積 正晃、和泉 輝郎、塩原 融
昭和電線ケーブルシステム株式会社 木村 一成、小泉 勉

3. 概要

超電導線材は磁場に弱いという基本特性を持っていますが、超電導線材中にナノレベル(数十nm)の超電導特性を持たない粒子を入れることで、磁場中での超電導特性を高める手法を開発しました。成蹊大学が基礎研究、(公財)国際超電導産業技術研究センターが線材化に向けた研究開発、そして昭和電線ケーブルシステム(株)が製品化に向けた長尺線材開発を行った産学官の成果が高く評価され、「フジサンケイ ビジネスアイ賞」受賞につながりました。

以上

この件に関するお問合せは、下記へお願いします。

昭和電線ホールディングス株式会社 経営企画部 IR・広報グループ TEL 03-5404-6951